

普及活動情勢報告（令和2年11月分）

須崎農業振興センター高南農業改良普及所

農薬を正しく、安全に使おう！ ～新規就農者向け農薬安全講習会～



熱心に講習を受ける皆さん

10月22日、新規就農者（10名）を対象に農薬の安全な使用についての講習会を実施しました。

普及所は、農薬の定義、農薬の剤型、剤型ごとの特徴、展着剤の効果、農薬ラベルの見方、使用上や保管する上で注意点、ローテーション防除の重要性などについて説明しました。

講習会では、展着剤の有無で湿展性がどのように変わるのを見るワークショップも行いました。参加者からは「展着剤の効果が確認できてよかった」、「薬剤を混合する際に剤型はどの順で入れた方がいいのかがわかった。」などの意見が出ました。

普及所は、今後も新規就農者に向けた講習会の実施を予定しています。

農福連携を推進 ～ニラ出荷調製作業の体験研修を実施～



ニラそぐり作業体験の様子

11月12日、四万十町内のニラ生産者の出荷作業場で障害者が、就労を目的としてニラのそぐりから計量・結束までの出荷調製作業を体験しました。これは、四万十町農福連携推進協議会が取り組んでいる、農産物の出荷調製作業に障害者の労働力活用を推進する活動の一環として、普及所が企画しました。

体験に参加した方は、「雇ってもらえるように頑張りたい。」と話していました。

また、体験会場を提供した農家からは「出荷調製作業がニラの生育に追いつかず、手が足りない時期があるため、今回来ていただいた方の雇用を検討したい。」と話し、翌週から雇用することになりました。

普及所はこれからも、四万十町農福連携推進協議会と協力し、四万十町の農福の連携を支援していきます。

散布用ドローンの効果を検討 ～スマート農業実証プロジェクト 散布用ドローン検討会～



散布動画を確認しながら試験結果を検討するオペレーターら

11月19日、プロジェクトの一環で行った散布用ドローンの性能試験結果について、営農支援センター四万十(株)のオペレーター7名と農業技術センター及び普及所の職員と検討しました。

感水紙を用いて水稻及び大豆での液剤の散布範囲や被覆面積率について調査を行った結果、風の強さや向き、対象作物の大きさや形状による散布の特徴が分かりました。

オペレーターからは「散布時の気象条件に充分注意する」、「無人ヘリコプターと効果を比べてみたい」との意見がきかれました。

次年度は、7月下旬に無人ヘリコプター及びドローンの比較試験を行えるよう、関係者と協力して計画していきます。

コロナを乗り越えろ！

～高収益作物次期作支援交付金の農家ヒアリングの実施～



農家ヒアリングの様子

11月9日から四万十町窪川地区と北幡地区において、役場やJ Aとともに高収益作物次期作支援交付金の農家ヒアリングを実施しています。今回のヒアリングは、同交付金の運用見直しに伴うもので、農家から戸惑いや不満の声が聞かれる中、普及所から見直しのポイントについて説明し、品目の減収額や次期作に向けた取組内容について確認しました。

普及所はこれからも役場、J A等の関係機関と連携し、各種補助事業の活用により農家の経営安定を図っていきます。

農業を始めたい方を応援しています ～十和地区での就農希望者の面談～



就農相談の様子

11月2日、J A高知県十和支所で就農希望者の面談を行いました。面談者は他産業からの就農を検討している方で、J Aからは希望する品目の経営概要や栽培内容等について、役場と普及所からは、国や県、町の各種就農支援制度の要件や取組スケジュールなどを説明しました。相談者は、家族で話し合い、今後の取組を検討することになりました。

普及所では、就農希望者の相談にあたり、J Aや役場の各地域振興課等の関係機関と連携して、それぞれの方のご希望や条件に合った就農に向けた支援を行っていきます。